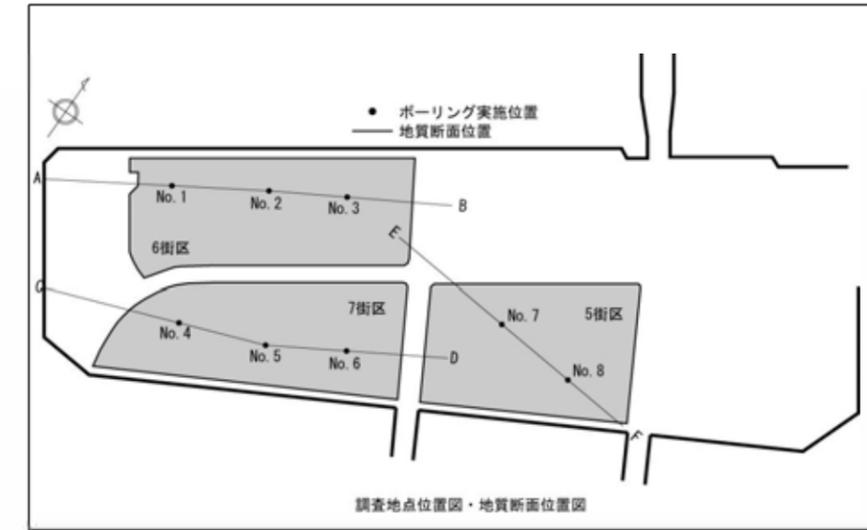
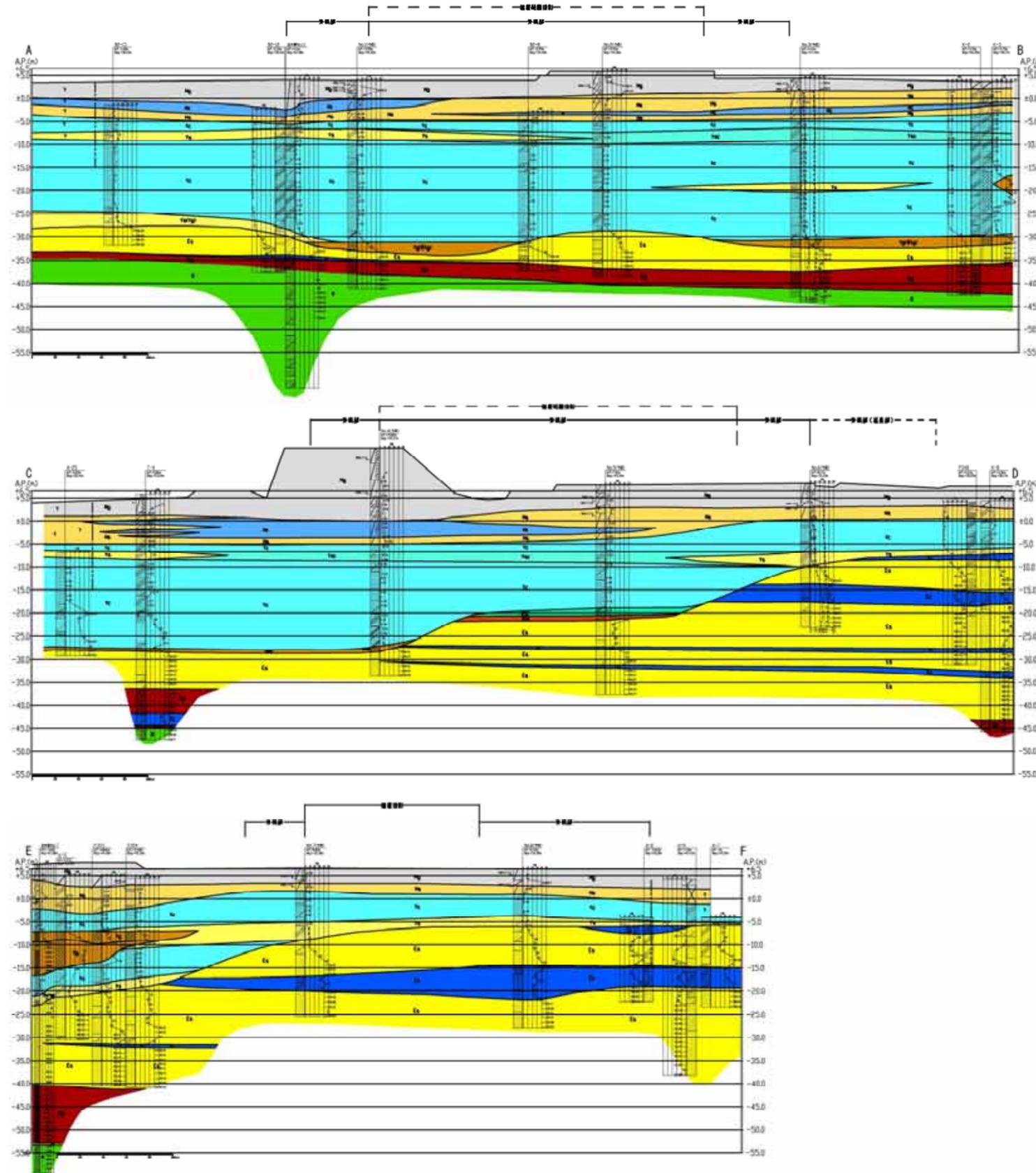


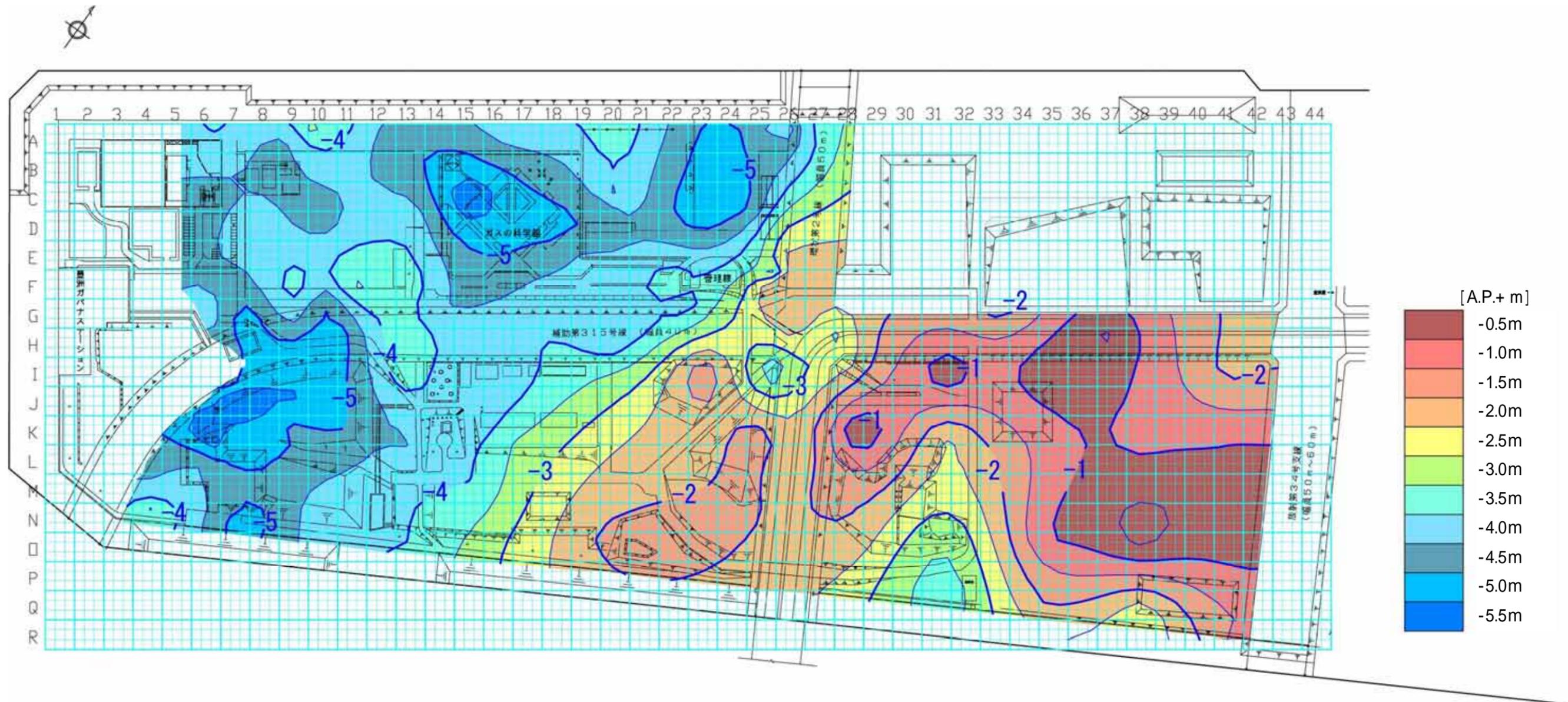
地質断面図



地質凡例

地質時代	地層名	層相・土質	記号	N値 (平均値)	特徴
完	盛土・埋土	確認じり土砂 (残土、瓦礫)	Hg	1~50以上	コンクリート片やレンガ片、礫等を混入する礫質土や確認じり土砂よりなる。残置基礎の一部を含む。
		砂質土	Hs	1~11 (5)	主に浸漬により形成された貝殻混じり砂質土よりなる。含水量多く、緩い。一部、薄い粘性土と互層状を呈する。貝殻片を多量に含む特徴がある。
		粘性土	Hc	1~8 (3)	浸漬により形成された軟弱な粘性土と礫等を混入する建設残土系の粘性土(ローム質土も含む)よりなる。
新 世 層	沖積層 有楽町層	砂質土	Ys	1~8 (5)	含水量が多く、非常に緩い細砂よりなる。細砂分を含む。有楽町層の最上部付近に土に分布しており、埋土とした液状土(砂質土Hs)と類似した層相を示す。見かけ上Hsより貝殻片の混入が少ない。
		中間土 (砂質シルト主体、一部シルト質砂)	Yoc	1~5 (3)	微細砂や細砂層を粗部に挟む粘性土からなり、部分的にはシルト質細砂状である。A.P.-6.5m~9.0m付近に分布するYs層にはほぼ連続する。貝殻片をしばしば多量に含む。
		粘性土	Yc	0~6 (1)	非常に軟弱なシルトよりなる。砂分の混入の多い部分が見られるが、全体にはほぼ均質なシルトで構成される。最上部は埋土の粘性土Hcとの区分が不明瞭である。基底部付近は褐色を帯びる有機質シルトが分布する。
		砂礫	Yg	20~38 (27)	6街区の沖積層基底部に分布する厚さ2m程度の緩い砂礫層と環状2号線と補助315号線の交差点付近の沖積層中に挟まれるほぼ縮まっている砂礫層からなる。6街区の砂礫層は、埋設段丘礫層Bの可能性がある。今回の調査では後者の沖積層中に挟まれる砂礫層は確認していない。
第 四 紀	埋設段丘堆積層	粘性土	Btc	1~5 (1)	有機質なローム質土よりなる。7街区の有楽町層下に分布が確認された。
		砂礫	Btg	31~42 (37)	φ2mm~50mm程度の円礫を主とする砂礫層で厚さは0.4m~2m弱である。含水量多く、やぶる層である。
	東京層	T	-	-	今回未確認
新 世	江戸川層	砂質土	Es	6~50以上 (50)	主に密に締まった砂層で構成され、微細砂から粗砂、確認じり土砂まで種々の粒径の砂層よりなる。5街区や7街区の沖積層などの液状層直下の部分はやや緩い部分が認められる。これらの部分は東京層(砂層)に相当する可能性もある。
		粘性土	Ec	11~50以上 (30)	5街区のA.P.-15m~20m付近に分布する。一部固結状を見せる硬質な粘性土である。地層の厚さの変化が著しい。このほかにはs層中に密に挟まれる粘性土も含む。
		砂礫	Es	71~50以上 (110)	6街区でのみ確認した。φ2mm~50mm程度の円礫、市川礫よりなる密に締まった砂礫層である。礫はほぼ新鮮で硬質なものが多い。直下の土層層を覆うように分布する。
土総層群	固結シルト(軟岩)	K	50以上 (80)	全体に砂分を少量含む固結シルトで構成される。いわゆる「土丹」とよばれる地層に相当する。液状層との境界部はやや軟質となるが、主体はほぼN値50以上を示している。既往資料では砂層をしばしば含む。	

不透水層上端深度分布図（有楽町層 Yc 層 [粘性土（粘土・シルト）層] の上端深度の分布図）



注) 土壌・地下水の詳細調査における先行ボーリングの結果及びこれまでに東京都が実施した既往のボーリングの結果をもとに作成。